

【別紙様式3】

再評価実施事業調査書

番号	2	事業名	木更津港港湾環境整備事業		路線又は箇所名等	木更津港 吾妻地区				
事業所管課	県土整備部港湾課		事業主体		千葉県					
事業化年度	平成5年度	用地着手年度	-		工事着手年度	平成5年度	再評価の理由			
					工事終了(認可)年度	平成21年度				
費用便益比 B/C	1.28	総費用	19.5億円	総便益	25.0億円	基準年	平成19年度	供用開始年度	平成22年度(平成8年度)	

【事業概要】

- 重要港湾木更津港は、千葉県南部地域における重要な産業、物流の拠点として古くより発展してきた。その中に位置する吾妻地区は、船舶の大型化に伴う公共ふ頭の木更津南部地区への移行により、老朽化した内港地区の再開発の一環として、漁業生産拠点としての小船だまりを整備している。吾妻地区緑地は面積2.5haの港湾緑地であり、漁業生産基地としての特質を活かした港湾空間形成の一端を担うことが期待されている。
- 吾妻地区緑地の整備目的は、市街地に隣接している等の好条件を活かし、港・海・緑を一体とした潤いのある緑地を整備し、港湾関係者および地域の人々に安らぎと憩いの場を提供するとともに、港湾における快適な環境を図るため、市民が海に親しむことのできる開放的な親水空間を確保し、市民の交流に配慮した緑地を整備する。

【事業の進捗状況】

- 事業の進捗および事業費の状況は下表の通り。

		計画全体事業費	H.5～H.18年度	H.19年度	H.20～H.21年度
事業費 (億円)	年次別	18.000	10.825	0.710	6.465
	累計	-	10.825	11.535	18.000
比率		-	60.1%	64.1%	100.0%

- 既供用施設(H.8から供用): 港湾緑地 A=0.4ha

【社会経済情勢等】

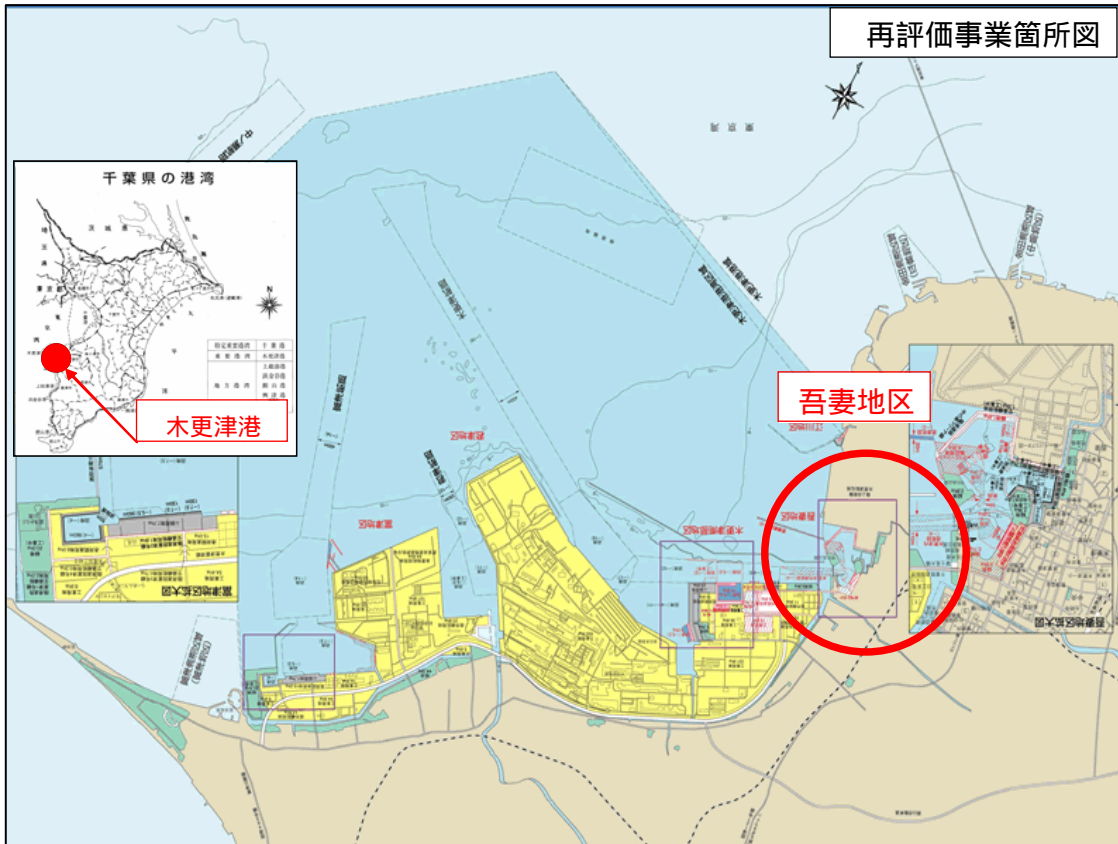
- 市民の価値観が、物質的な豊かさのみならず精神的な豊かさも重視する方向へ変化していることに伴い、ウォーターフロントでの余暇活動、海洋性レジャー、景観・環境保全等への関心の高まりに対応して、海の自然や港の魅力に触れ合い、快適に利用できる緑地等の整備が求められている。
- 木更津市では、みなとを活かしたまちづくりを推進するため「みなと木更津再生構想」を策定し、吾妻地区の再整備を位置づけており、市街地に近接した特性を生かした人々が親しめる憩いの空間として、緑地を中心としたアメニティ施設の整備を図ることが望まれている。

【対応方針(案)】

- 吾妻地区の緑地整備は、市民の親水空間への要請の高まりに対応するとともに、木更津市が進めるみなとを活かしたまちづくりの一翼を担うものであり、地域の活性化にも寄与するものと考えられることから継続して早期に完成させる必要がある。

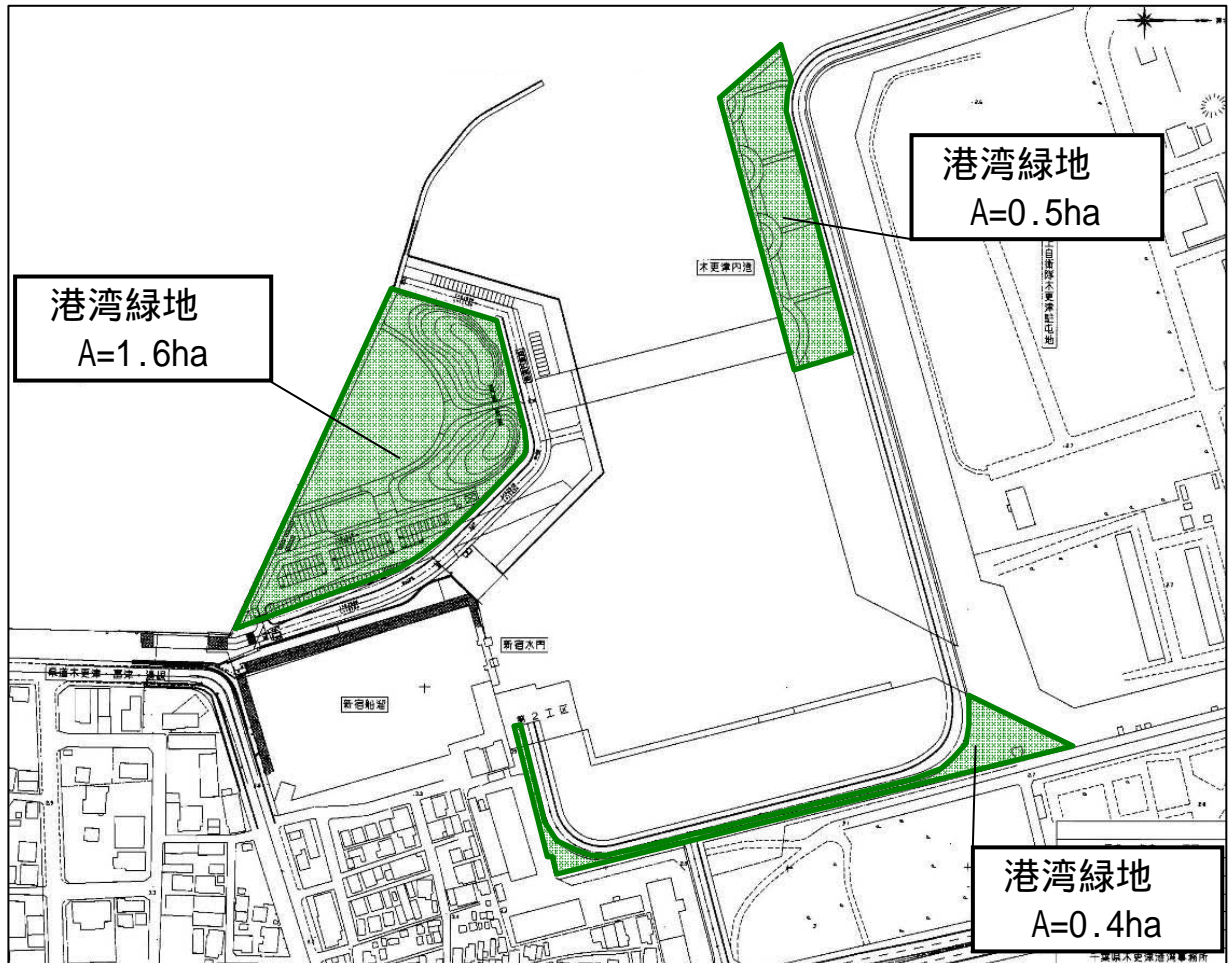
事業概要図

番号	2	事業名	木更津港港湾環境整備事業	路線又は箇所名等	木更津港 吾妻地区
----	---	-----	--------------	----------	-----------



事業概要図

番号	2	事業名	木更津港港湾環境整備事業	路線又は箇所名等	木更津港 吾妻地区
----	---	-----	--------------	----------	-----------



吾妻地区緑地完成予想イメージ図

【別紙様式4】

整備計画概要					
番号	2	事業名	木更津港湾環境整備事業	路線又は箇所名等	木更津港 吾妻地区
基本テーマ	<p>港・海・緑を一体とした潤いのある緑地を整備し、港湾関係者および地域の人々に安らぎと憩いの場を提供する。</p> <p>港湾における快適な環境の創造を図るため、市民が海に親しむことができる開放的な親水空間を確保し、市民の交流に配慮した空間の創出を図る。</p>				
基本方針	<p>自然環境と調和した緑地</p> <p>海を眺める親水空間としての緑地</p> <p>吾妻地区を周遊できるプロムナードのある緑地</p> <p>こどもからお年寄りまでが利用できる緑地</p> <p>多目的広場として利用できる緑地</p> <p>地域住民と協働で創る緑地</p>				
[供用中] 港湾緑地 (0.4ha)	【概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふ頭用地と背後地との境界付近に設ける緩衝帯としての緑地。</li> </ul>		【導入施設】	-
[整備中] 港湾緑地 (1.6ha)	【概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催が可能な広場のある緑地。</li> <li>遊漁船利用客の駐車スペースとしての役割。</li> <li>牧草系のグランドカバーにより「広っぱ」を整備し、原っぱの周辺にはこどもが登って遊べるこぶ山を配置する。</li> <li>休憩施設は、下草に腰をおろせるような利用を目指し、ベンチ類は影石ベンチ程度とする。</li> <li>また若者やカップルの利用を想定し、水辺にプロムナードを整備し、プロムナードには港の景観を考えたベンチを配置する。</li> </ul>		【導入施設】	ベンチ・街灯・東屋（パーゴラ）・転落防止柵・トイレ・水飲み場・案内板（誘導サイン）等
[整備中] 港湾緑地 (0.5ha)	【概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>周遊するプロムナードの一部となるとともに、周辺でのイベント開催時に予備地となる緑地。</li> <li>背後に陸上自衛隊木更津駐屯地を有することから植栽等による景観配慮が必要。</li> </ul>		【導入施設】	ベンチ・街灯・転落防止柵・案内板（誘導サイン）等
動線計画	出入口	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾緑地 へのアプローチ：(県)木更津富津線に設ける出入口</li> <li>港湾緑地 へのアプローチ：(県)袖ヶ浦中島木更津線との取付道路</li> </ul>			
	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に緑地利用者への対応を考える。</li> <li>各緑地毎に駐車場を設け、まとめて大規模にならぬように配慮する。</li> <li>駐車場の舗装は芝ブロックなどで積極的な緑化を図る。</li> <li>港湾緑地 の必要駐車台数：乗用車80台 / 大型車4台</li> </ul>			
	園路	<ul style="list-style-type: none"> <li>有効幅員3m</li> <li>アスファルト舗装、コンクリート舗装</li> </ul>			
植栽計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民や港湾労働者が花や落葉などの四季の変化により身近に自然を感じることができるような緑化を図る。</li> <li>諸施設と景観的に調和するとともに、地域住民や港湾労働者が諸施設を利用する際に心理的妨げ（圧迫感および隔離）とならないような開放感のある緑化を図る。</li> <li>当該地は海に面しており、潮風害が予想されるためその対策を講じる必要がある。</li> <li>当該地は埋立地であり、化学的・物理的に土壌が不適であることが考えられるため、改善策を講じる必要がある。</li> </ul>				

## 再々評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	木更津港港湾環境整備事業	路線又は箇所名等	木更津港 吾妻地区
事業化年度	平成 5 年度	用地着手年度		工事着手年度	平成 5 年度

## 【再評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 14 年度 (平成 13 年度)	供用開始年度	平成 18 年度	対応方針	継続
B / C	1.49	総費用	23.9 億円	総便益	35.6 億円

## 再評価時の委員会の意見及び当時の状況

中心市街地に隣接し利用価値が高いと判断されるため、計画に基づいた整備を図り、早期供用が図れるよう整備する。

## 再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況	5 年後の想定進捗状況
全体事業費	22.2 億円	6.6 億円 (29.6%)	22.2 億円 (100%)
用地取得面積			
供用面積 (延長)	2.5ha	0ha (0%)	2.5ha (100%)

## 【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 19 年度	供用開始年度	平成 22 年度 (平成 8 年度)	対応方針	継続
B / C	1.28	総費用	19.5 億円	総便益	25.0 億円

## 現在の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	18.0 億円	11.5 億円 (64.1%)
用地取得面積		
供用面積 (延長)	2.5ha	0.4ha (16.0%)

## 再評価後の経過及び処理状況

- 再評価時の翌年度からの事業費は、近年の財政状況の影響から予定した予算額を下回る結果となっている。
- 海苔漁場が近接し 9 月以降の工事が制限されることから、前年度に工事を発注できる債務制度や年度明け早々に着手できるような手続きを取ることで進捗を図っている。
- 埋立用材に他工事からの建設発生土を有効利用しコスト縮減を図っている。
- 県内の人口減少が今後の利用者数の減少要因となる可能性があるが、需要量を - 10% とした場合の感度分析結果の投資効率性は B / C = 1.16 という結果となっている。
- 木更津市はみなとを活かしたまちづくりを推進するため、本地区の緑地整備を「みなと木更津再生構想」に位置付け、整備促進の要望が出されている。
- 再評価時には各便益の根拠となる支払意思額、旅行費用を参考値により算定していたが、再々評価ではアンケートやヒアリング調査の結果に基づき算出したため、B / C が低くなっている。
- 財政状況を勘案しながら他の港湾事業と併行して段階的に整備を図ってきたことや、埋立用材の他工事からの建設発生土を有効利用するために工程の調整を図ってきたことに加え、工事区域が狭隘で複数の作業船が投入できないなどから再評価時に見込んだ進捗に至っていない。